

【「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書】

(モデル校名 兵庫県 神戸市立須磨高等学校)

《学校の概要（平成 15 年 4 月現在）》

神戸市立須磨高等学校					
	1 年	2 年	3 年	計	教員数
学級数	7	7	8	22	60
児童数	282	273	294	849	

1. 本年度当初、須磨高校が抱えていた「総合的な学習の時間」の課題

【1年】「進路プラン」

- ① 本格実施による年間を通じての指導
- ② 教員の配当

【2年】「須磨学」

- ① 来年度本格実施に向けてより詳細な年間指導計画の作成
- ② テキスト及び指導書の作成
- ③ 教材の開発

【3年】「マイチャート」

- ① 年間指導計画の決定
- ② 学習指導案と展開例の作成

2. モデル地域としての研究主題を、本校でどのように受け止め、どのような目標設定をしたのか。

小中高の有機的連携を図るため

- ①小学生・中学生と高校生の異年齢の交流を図る
- ②共通テーマを「環境」に設定し、協働できる場をつくる
- ③「総合的な学習の時間」と教科・科目等の関連をもちながら、連携を図る
- ④小中学校教員との共同作業を通じて交流を図る
- ⑤地域の人材の相互利用をめざす

を目標として設定した。

3. 平成 15 年度の須磨高校の取組内容と、その結果どのような成果と課題が見つけたのか。

(1) 須磨高校における取組内容

- ・より具体的な年間指導計画の作成
- ・テキスト、指導書の作成
- ・小中高連携場面の想定
- ・小中高の連携担当者との積極的な打ち合わせと職員研修会への相互参加

(2) 成果と課題

①成果

- ・児童、生徒に「育てたい力系列表」の検討・作成

- ・学習内容系列表の検討・作成
- ・小中高連携を組み込んだ年間指導計画の作成
- ・小中高教員の交流と連絡体制の構築

②課題・・・具体的な展開のあり方

- ・「須磨学」と「環境」の展開と関連
- ・児童、生徒の交流の在り方
- ・各校種間の教員の動き

4. 本年度の課題を踏まえて、平成16年度どのような取組を行う予定か。(全体計画の作成した際の視点について)

【視点】小学生・中学生との協働を念頭に置いた研究分野の設定と内容の精選⇒

平成15年度に作成した小中高連携を盛り込んだ年間指導計画の実施

具体的な取組として

- ①発表会など各種行事での相互交流
- ②小中高連携した取組の発信
- ③小中高教員間の緊密な連絡体制の継続

などがあげられるが、現実的には生徒レベルでは2ヶ月から3ヶ月に1回くらいのペースで小中学校の児童・生徒と連携が取れればと考えている。

「総合的な学習の時間」全体計画

神戸市立須磨高等学校

[1] 本校における教育目標→自立性を身に付け、豊かな人間性、社会性で未来を拓く人間の育成
上記の目標を実現するために

- (1) 自ら学び、自ら考える主体的な人間を育成する教育を進める。
 - (2) 基礎基本の定着を図り、個性を伸張する教育を進める。
 - (3) 他者への思いやりをもたせる教育を進める。
 - (4) 地域情報の収集・集積・発信基地を目指し、地域に開かれた学校づくりを進める。
- 以上のことの達成を目指す。

[2] 総合的な学習の時間のねらい

現在の高校生としての自分と将来の自分を見つめ、主体的に自分の在り方生き方を設計し、目的意識を高め、理想とする自己を実現する能力を高めることをねらいとする。このねらいを達成するために、各年次それぞれの総合的な学習の時間において目標を設定し、3年間を通じて各教科の指導や特別活動と連携し自己構築力の育成を目指すものとする。

- 〈1年生〉自己を見つめる（自己認識と目的意識）・・・（導入と基礎）
- 〈2年生〉社会を見つめる（人間性と社会性）・・・（充実と発展）
- 〈3年生〉未来を見つめる（将来設計と自己表現）・・・（深化と総合）

[3] 各年次の総合的な学習の時間

〈1年〉「進路プラン」（1単位）

自己を見つめ、将来の自分の姿を見通した、正しい職業観を培い、自ら進むべき目標を設定することにより、自らの課題を発見し、高等学校での学習設計能力を養うとともに、進路意識・目的意識を高める。

〈2年〉「須磨学」（1単位）

「地域で学ぶ」「地域を学ぶ」「地域から学ぶ」という視点に立ち、自己の興味・関心に基づく課題を設定し、地域交流、情報収集、問題解決、他者との交流・協力、研究成果の報告・発表を通じて、広い視野を持って異文化共生時代の社会に対する認識を深め、主体的に考え、表現できる力を養う。

〈3年〉「マイチャート」（1単位）

1年次、2年次での取り組みをより深化させることによって、社会全体の変化・変革や国際化の進展に即応できる資質・能力を養うために、実践的に現実を踏まえた進路設計や問題解決を図る。

[4] 評価の観点と方法

生徒自らが課題を見付け、設定し、その解決の過程を、以下の7項目の観点から総合的に評価する。

- (1) 自主的・意欲的態度
- (2) 探求的・創造的態度
- (3) 知的・社会的関心
- (4) コミュニケーション能力
- (5) 課題発見・課題解決能力
- (6) 情報の収集・整理能力
- (7) 表現・発表能力

また、評価方法については、上記の評価の観点をもとに次のようにする。

(1) 単位の認定について

教務内規に基づき、活動状況に一定の成果があると認められた場合に単位を認定する。

(2) 評価の対象となるもの

- a 活動記録 b レポート・感想文・研究報告書 c 発表原稿・発表資料
- d 研究成果物 e 自己評価・相互評価表 f 活動の意欲・態度

(3) 評価方法について

数値評価はせず、評価の対象となる活動記録等を資料として、取り組んだ内容と成果についての所見を記す。

「総合的な学習の時間（須磨学）」

年間指導計画

神戸市立須磨高等学校

月	単 元 (カッコ内時間数)	内 容	形 態 ・ 方 法
4	オリエンテーション (3)	①講演「地域学について」 ②年間計画の確認 ③講演「各分野について」	・学年一斉に実施 ・HRごとに実施 ・希望分野別に実施
5	テーマ設定 (3)	①アンケート調査 ②テーマ設定 ③班編制	・HRごとに実施
6	調査・研究方法の習得 (3)	①文献検索の基礎知識・方法 ②取材方法1 ③取材方法2	・HRまたは班ごとに実施
7	調査・研究（フィールドワーク）の実践（1）	①調査・研究の方法と計画	・班別に実施 ・夏期休業中は班ごとまたは個別に活動
8			
9	調査・研究結果の分析と整理 (3)	① 調査・研究結果の分析と整理 ②、③ 分析・整理作業	・班ごとまたは個別に実施
10	調査・研究の発表準備 (8)	①～⑧各発表形式ごとに準備 ・壁新聞形式 ・レポート形式 ・ホームページ形式 ・プレゼンテーション形式	・班ごとに実施
11			
12	調査・研究の報告書作成(2)	①、②調査・研究結果の報告書作成	・HRまたは班ごとに実施
1	調査・研究の発表会 (3)	①壁新聞形式発表 ②プレゼンテーション形式発表 ③ホームページ、他形式発表	・学年一斉に実施
2			
	調査研究の反省とまとめ(1)	①アンケートと自己評価	・HRごとに実施